# もりや仙一郎便り 県政報告 Vol.63

## 平成28年さくらんぼ総括

# 雇用・市場価格に課題

本県の主力農産物のひとつ「さくらんぼ」の収穫が終わりました。収穫前の作柄調査では「やや良い」の判定が付き、農家の期待も大きくシーズンがスタートしました。今年は生育ステージが早く、心配された遅霜も4月に天童市内東部の一部で影響があったものの、全体的に順調な着果数があり、摘果作業に追われた日が続いたのではないでしょうか。

主力の佐藤錦は摘果、葉摘みの作業が追いつかない6月13日頃から収穫がはじまり、鈴なりの状態で迎えた農家が多かったようです。

担い手不足でさくらんぼの木を伐採した果樹園

今年の生産量（県内）は平年の45%増、売上高も15%増と農協関係者が発表したものの、資材・人件費に多くの経費がかかり収入が減少する農家も多く見受けられました。一方、早い段階で収穫を進められた農家にとっては収入が多く発生した年となりました。いずれにせよ、今年の総括は次の改善点がポイントとなるようです。

### 改善点①

当初から問題視されていた、雇用状態が非常に悪く、収穫、選果、パック詰めの人出が極端に不足していました。背景には天童市内の有効求人倍率が上向いていることなどが挙げられます。パート・アルバイトの雇用ができず、収穫が追いつかない木が多く見受けられました。とてももったいないことです。

### 改善点②

佐藤錦の収穫がやっと半分ぐらいまで進んだ6月25日・同27日から、「うるみ果」によって市場の価格下落が起きました。さくらんぼの実勢価格が大幅に下がり、資材・人件費によっては1パックあたり赤字になる価格が示されました。この発表は農家にとってとても痛手でした。しかし、山形県のさくらんぼの価値を下げるわけにはいきません。当然、「うるみ果」などは出荷せず、我慢の時期になっていました。

### 改善点③

佐藤錦に続く主力品種・紅秀峰の出荷解禁日が早すぎました。解禁日は県内の農協関係者が一堂に介し、日程を決定するわけですが、佐藤錦の出荷が半分も終わっていないにも関わらず、天童市以外の農協が解禁日を早めることに賛同したため、色が先行したものの甘味が足りない紅秀峰が市場に並び、佐藤錦との価格競争も呈し、価格が不利に働く現象がおきました。

紅秀峰は満開後、65日を境に出荷する一定の決まりがありますが、市場の状況、佐藤錦・紅秀峰の生育に応じた解禁日の設定が必要です。

この現状を私はすぐ県の農林水産部の担当と議論を交わしてまいります。さくらんぼは本県の特産であるばかりか、果樹農家にとって1年で最初の現金収入を得られる作物であります。多くの農家と農協の声を精査し、県産のさくらんぼがより一層、市場の期待に応えられるような成果をあげるための施策を求めてまいります。一方、「農林業センセス」によると天童市のさくらんぼ栽培面積は平成22年に500ヘクタール、平成27年に470ヘクタールが姿を消しています。従事者が高齢化するなか、今後も減少率は進むものと思われます。今後は新規就農者を増やす施策や担い手農家が営農しやすい環境づくりが求められます。皆さまの声をもとに、さくらんぼ大国を維持するためにも、県へしっかりと訴えてまいります。

天童市山口

# “なでしこの里”好評

## 住宅分譲、残りわずか

山形県住宅供給公社が住宅分譲をしている「なでしこの里」＝天童市立山口小学校裏側＝の第二期分譲（29区画）が6月14日にスタートし、7月26日までの約1カ月間で23区画が決定する人気ぶりをみせています。子育て世代を対象に、坪単価平均を6万円ほどに抑えた低価格が好評で、山口地区も子育て世代の若い方々が地域に入ることに積極的です。残り6区画もいずれ埋まるでしょう。地域に若者を呼ぶ施策としてこのような住宅分譲は効果的です。

「なでしこの里」＝天童市山口

人気の「なでしこの里」ですが、市内から視察に訪れる地域が多くなっています。7月27日には天童市寺津地区の地域振興会のメンバーが訪れ、現地を見学しました。同地区も小学校の児童が減少し、若者の定住が課題となっております。天童市内の郊外地域はどこも同じような課題を背負っているのではないでしょうか。今後も子育て支援、若者定住に向けた団地づくりを推進してまいります。

北海道

## 新千歳空港を視察

山形県議会の常任委員会で7月、北海道の新千歳空港を視察しました。2011年の震災以降、北海道の農水産物の輸出は右肩上がりで、今年度は600㌧を達成する見込みです。2011年が439㌧ですから、その勢いが分かるかと思います。内訳をみると輸出される農産物のほとんどが養殖のホタテです。北海道は世界の4割の生産量を占め、輸出先の7割は香港です。毎日国際線を通して盛んに交流されています。今後の展開として仙台空港と新千歳空港が連携して東北地方の生鮮食品の輸出拡大を図ろうと検討されています。我が山形県においても立派な農産物は武器になりますので積極的な輸出の展開を考えていかなければなりません。

## 山形空港からさくらんぼ輸送 6年ぶり航空貨物

ことし6月10日から7月10日まで期間限定で山形空港からJAL便でさくらんぼを航空貨物として輸送されました。飛行機1機300㌔のさくらんぼを積み、期間合計で21㌧を西日本の市場に向けに発送されたようです。県とJAL、JALと輸送会社が連携し行われた同事業は、様々な課題もあったようで、次年度に向けて、早い段階から協議を重ねる必要があるようです。まず今年はスタートの年です。貨物ターミナルの活用を踏まえ、仙台空港との連携も視野に、空路は今後のさくらんぼの販路拡大に向けて有効に活用しなければなりません。

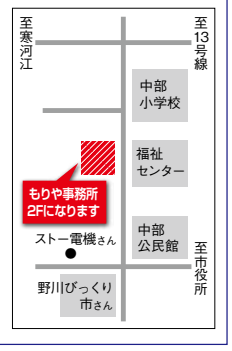

# もりや仙一郎事務所

ご意見を募集しております。FAX・メール・ブログで頂けると幸いです。
こうして欲しい！ ココが問題！ 改善して欲しい…など

☎023-651-5539 FAX023-651-5549

〒994-0013 天童市老野森３丁目4-17

もりや仙一郎　検索

ホームページ http://www.10016.jp/

facebook 友達登録をお願い致します。　QRコードでアクセス